

4月

# 新着図書

## 月とアマリリス

著者名： 町田 そのこ  
出版社： 小学館

本屋大賞作家の新境地となるサスペンス巨編

声なき声が届くなら、今度こそ記者を諦めない。

『52ヘルツのクジラたち』で2021年本屋大賞を受賞後、『星を掬う』『宙ごはん』で同賞に3年連続ノミネート。人間ドラマを中心に執筆してきた町田そのこさん、初のサスペンス巨編！

## 禁忌の子

著者名： 山口 未桜  
出版社： 東京創元社

救急医・武田の元に搬送されてきた、一体の溺死体。その身元不明の遺体「キュウキュウ十二」は、なんと武田と瓜二つであった。彼はなぜ死んだのか、そして自身との関係は何なのか、武田は旧友で医師の城崎と共に調査を始める。しかし鍵を握る人物に会おうとした矢先、相手が密室内で死体となって発見されてしまう。自らのルーツを辿った先にある、思いもよらぬ真相とは——。過去と現在が交錯する、医療×本格ミステリ！ 第三十四回鮎川哲也賞受賞作

## 一次元の挿し木

著者名： 松下 龍之介  
出版社： 宝島社

ヒマラヤ山中で発掘された二百年前の人骨。大学院で遺伝学を学ぶ悠がDNA鑑定にかけると、四年前に失踪した妹のものと同じ。不可解な鑑定結果から担当教授の石見崎に相談しようとするも、石見崎は何者かに殺害される。古人骨を発掘した調査員も襲われ、研究室からは古人骨が盗まれた。悠は妹の生死と、古人骨のDNAの真相を突き止めるべく動き出し、予測もつかない大きな企みに巻き込まれていく——。

## 生殖記

著者名： 朝井 リョウ  
出版社： 小学館

◆「2025年本屋大賞」ノミネート・「キノバス！2025」第1位◆

『正欲』から3年半。本年度最大の衝撃作、大反響10万部突破。

とある家電メーカー総務部勤務の尚成は、同僚と二個体で新宿の量販店に来ています。

体組成計を買うため——ではなく、寿命を効率よく消費するために。

この本は、そんなヒトのオス個体に宿る〇〇目線の、おそろい誰を読んだことのない文学的の集積で

緑色のタイトル名は児童書です

## 小説

著者名： 野崎 まど  
出版社： 講談社

2025年本屋大賞ノミネート

「キノバス！2025」第3位

『ダ・ヴィンチ』（2025年2月号）今月の絶対外さないプラチナ本！

第8回ほんタメ文学賞2024年下半年あかりん部門ノミネート

「物語に救われ、読書に呪われた」

君はなぜ、小説を読むのか？

## どうせそろそろ死ぬんだし

著者名： 香坂 鮎  
出版社： 宝島社

2025年第23回『このミステリーがすごい！』大賞・文庫グランプリ受賞作

余命宣告された人々が集まる山荘で起きた、ある一人の突然死。

自然死か殺人か——。超新星の二度読み必至「館」ミステリー！

## 少年殉教者

著者名： 松村 涼哉  
出版社： KADOKAWA

「オレは、ルールの下に死んでいく」——人気絶頂のなか、謎のメッセージを残し自ら命を絶った俳優SIN。

動画投稿に没頭する女子高生の詠歌は、ある出来事から、死の直前の彼の姿を偶然撮影してしまったことに気づく。不審人物が映り込む、たった4秒間の事件の手がかり——SINは誰かに殺された？

憶測で過熱する報道を傍目に、詠歌は彼の死に疑問を抱く少年翔とともに真犯人を追う。だが、意味深な遺言に仕掛けられた謎に気づいた時、驚愕の事態

## 潮音 第一巻

著者名： 宮本 輝  
出版社： 文藝春秋

幕末・維新の激動に立ちむかった「富山の薬売り」たちの知恵と勇氣。

宮本文学初の大河歴史小説、四ヵ月連続刊行！

幕末の越中富山に生まれた川上弥一は、藩を挙げての産業・売薬業に身を投じる。

やがて薩摩藩を担当する行商人となった弥一は、薬売りと薩摩藩をつなぐ「密約」に気づき始める——。黒船来航、幕府の危機を背景とした壮大な物語が、今はじまる。

\* 内容紹介は「BOOK」データベースより